

# 山代温泉

北陸加賀やましる



山代温泉のロゴマークの元となった北大路魯山人作の  
暁鳥(あけがらす)の衝立(ついたて)[あらや滔々庵]

開湯千三百年と言われる長い歴史を持つ南加賀の3つの温泉、山代、山中、粟津温泉。今回は、そのうちの一つ、山代温泉をこの町で生まれ育った萬谷はるかさんと歩く。千三百年と言われてもなかなかピンとこないけれど、「せんごくくん」というマスコットでも話題になった平城遷都が、七一〇年。高僧・行基が山代温泉を発見したのが七二五年だから、奈良の都とその歴史の長さほぼ同じ。あの京都の町の歴史よりも古いのだ。そんな歴史ある山代温泉のステキなモノ・コト・ヒトと出会う、小さな旅に出かけよう。

# 山代温泉探訪記

山代温泉の奥深い魅力を探す  
小さな旅にでかけよう。

「一緒に歩いた人」  
雷谷はるかさん、生水精之助さん  
写真、文、タカヤナギユタカ



## 山代温泉とヤタガラス

伝説の三本足の霊長、ヤタガラス(八咫鳥)。古事記や日本書紀に、神武天皇が東征の途上、天から遣わされたヤタガラスの道案内で熊野・吉野の山中を行軍したと記されていて、ヤタガラスは太陽の使者、勝利を導く幸運のシンボルとされ、日本サッカー協会のシンボルマークにもなっている。三本足の鳥の神話は、古くから世界各地に見られ、エジプトの壁画や古代ギリシャのコインにも描かれていて、中国では太陽に向かって飛ぶ鳥は鳥からすだけとか、太陽の黒点が鳥のように見えたとかで、太陽神として祀られていた。また、高句麗では天孫の象徴であるとされ、古墳壁画にも三本足の鳥が描かれている。さらに、ギリシャ神話での鳥は太陽神アポロンの使い、英国のワタリガラスは王家の紋章。紀元前334年、アレキサンダー大王の東方遠征でも鳥がアレキサンダーを救っている。

ちなみに、神社に必ずある鳥居は、ヤタガラスが神武天皇に、天皇の御世に使えるための居場所として作って欲しいと申し上げたものとか。さて、前置きが長くなってしまったが、

### 私の住むまち、山代。

毎年初詣は家族全員で服部神社へ。四季の祭事には近所の人からも手作りの柿の葉寿司やお菓子が届けられた。一步外に出れば商店街の人達が優しく声を掛けてくれ、緑豊かな萬松園では日が暮れるまで遊んだ。小さい頃の私の思い出には、いつもそこに山代の風景と人達の笑顔があった。今回大人になり改めて山代の街を歩き、お話を聞く中で、今まで知りえなかった新たな山代の一面を発見する事ができた。山代に生まれ育ち山代をこよなく愛するが故、その魅力を伝えようとする人。一度は山代を離れたが、再びこの地に戻り人生の再スタートを切った人。山代の外から、新たな風を送り込もうと努力している人。皆それぞれ立場は違えど、より良いまちにしようとする真摯な向き合っている。それは「見せかけ」ではなく、山代本来の持つ魅力・文化をもう一度掘り起こし、訪れた人にもありのままに触れてもらいたいという願いにも思えた。まちの魅力は、イコールそれを支える人達の魅力だ。そして私の住むまち、山代には、毎日の暮らしの中で当たり前のように根付いてきた「もてなしの心」が存在している。

萬谷はるか



山代温泉と九谷焼をこよなく愛する山代温泉寺にある樹齢300年の榎。与謝野晶子が詠んだ「九谷なるかまが作るも山代の薬王院に咲けるも榎」の句碑がある。